

2025年度 前期「科目等履修生」開講科目 講義概要(1)

授業科目(担当教員)	講義概要	
日本 理解 専攻	日本文化入門 (梶原 健嗣)	現在の日本文化は、各時代に花開いた様々な文化的が重層的に折り重なったものである。そうした観点に立ち、歴史的に日本文化の発展・変容を理解することを目指す。
	日本文化論 (岡庭 義行)	本講は、日本文化の歴史と事例を概観し、主に社会学、人類学、民俗学等の視点から解説を試みることで、「日本文化」に関する総体的な理解を深めることを目的とする。
	日本語の音声と語彙 (部田 和美)	音声学、音韻論、形態論の理論に基づき、日本語の音声や語彙の特徴について学ぶ。音声、音韻に関しては、他言語と比較し、日本語学習者が日本語の発音を学ぶ上ででの困難点について考える。また、語彙は主に日本語の語構成や意味について学ぶ。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。
	言語学概論 (部田 和美)	言語学に関する一般知識について学ぶ。言語がどのように研究されてきたのか、各時代で主流だった複数の言語理論を概観する。また、日本語を世界の言語の中の一つとして客観的に捉え、言語学の理論に基づいた日本語文構造や意味構造を学ぶ。単に講義を聞くだけではなく、毎回ワークシートを利用し能動的に授業に取り組んでもらう。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。
	日本社会史 (梶原 健嗣)	政治史・外交史の分野で日本の近現代を学ぶ日本史学概論(史学概論)に対して、本講義では社会経済史として、日本の近現代史を学ぶ。
	日本事情 (部田 和美)	前半は「時事問題」「日本の文化」「国際社会での日本」から話毎回話題を1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめる。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。
	東洋文化論 (山崎 寿美子)	東洋が西洋からどのようにイメージされ、記述されてきたか、文化の表象という問題を考える。そのうえで、東洋的な精神や文化的様相について議論する。
	日本とアジア (梶原 健嗣)	日本の歴史と対外関係史として学ぶ。日本と国際社会が、対アジア、対欧米を含み、地誌学的視点も含めて幅広い学修になるのに対し、本講義では対アジアと特化、歴史を基本とした。
	国際関係論 (梶原 健嗣)	20世紀、とりわけ戦後の国際関係を政治・経済両分野での確に理解することをも目的とする。その時、歴史の流れを正確に理解することを重点目標とする。
	異文化理解 (清水 聖子)	異文化についての基礎的な知識を得ることと共に、その知識を実生活上を照らし合わせながら異文化理解とは何かを体得していく。
観光地理学 (栗林 慶)	観光について、主に地理学の観点から取り上げる。様々な地域の事例から、地域が持つ観光資源や、観光産業によって生じる地域的変化について理解を深める。	

2025年度 前期「科目等履修生」開講科目 講義概要(2)

授業科目(担当教員)		講義概要
日本理解専攻	ポップカルチャー論Ⅰ (さちみ りほ)	漫画論である。日本の漫画製作のありようを学び、その影響力等への理解を深めることを目的とする。
	ポップカルチャー論Ⅱ (さちみ りほ)	マンガの表現方法の理解を深め、批評・分析力・実技力も高める
心理・生活専攻	社会心理学Ⅰ (原島 雅之)	本教科では社会心理学の基礎について取り上げる。個としての人間がどのようにして社会性を形成するか、またどのようにして自己や社会と関わっていくのかについて、様々な研究例をもとに紹介していく。
	学習心理学 (佐久間 直人)	われわれは経験によって、行動の傾向や好みが変化し、得意なこと・苦手なことや、癖などを身につけている。これらの基礎となるメカニズムについて、条件づけの理論を中心に学ぶ。また、学習心理学の後から登場した認知心理学やPDPモデル、行動療法やSSTなどの応用的展開との関係を議論する。
	教育心理学 (中村 博子)	子どもたちが知識や社会性を主に身に着けていく場である学校において、発達段階に応じて主体的で深い学習活動を支える理論や実践方法を学ぶ。また、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。
	性格心理学 (原島 雅之)	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういふものかを説明することはなかなか難しい。本講義では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。
	臨床心理学 (中村 博子)	臨床心理学は、人の心の悩みや葛藤について理解し、援助を行う実践的な学問である。臨床心理学の位置づけ、定義、概念、心理機制、対象疾患等について学び、心理検査、心理療法を中心に臨床場面での心理学の手法について実践的に学習する。
	産業心理学 (中村 博子)	産業心理学は、産業活動に関わる諸問題に対する心理学的な取り組みについて学ぶ。組織行動(モチベーションやリーダーシップ、意思決定など)と、人的資源管理(人事評価やキャリア問題)、安全衛生(ストレス・制度や法律)の3視点から、特にメンタルヘルスを重点的かつ実践的に学んでいく。アルバイトや今後の進路選択・就職活動に活かせる内容である。
	色彩心理学 (佐久間 直人)	色は、日常で目にする物体の最も基本的な属性の一つであり、極めて身近なものである。しかし、実際には「色とは何か」、「色が見えるとはどういうことか」は一般的には知られていない。本講義では、色の仕組み、色にまつわる心理学的な諸現象の紹介を通して、色と人間の関わりを学ぶ。

2025年度 前期「科目等履修生」開講科目 講義概要(3)

授業科目(担当教員)	講義概要	
心理・生活専攻	<p style="text-align: center;">心理学研究法 I</p> <p style="text-align: center;">(佐久間 直人)</p>	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法 I ではテキストの1章から7章にある、データの取得方法までをとりあげる。
	<p style="text-align: center;">生活科学概論 I</p> <p style="text-align: center;">(市川 遥夏)</p>	食・香料と生活を中心とする生活科学入門で、内容は栄養素とそれらの機能、機能性食品、特定保健用食品、食中毒、食品添加物、遺伝子組み換え食品と安全性、残留農薬、環境ホルモン、香料について全般的に解説する。
	<p style="text-align: center;">食文化論</p> <p style="text-align: center;">(市川 遥夏)</p>	アジアにおける国民の健康づくりのためにバランスを整った食生活を理解できるようになる。アジアの地域ごとの食文化の特徴および各国の食文化の形成から、日本食への影響を思考することができる。
	<p style="text-align: center;">介護・児童福祉論</p> <p style="text-align: center;">(鈴木 智子)</p>	本講義では、前半に介護が必要な高齢者や障がいのある人が、その人らしい人生が送れるように社会資源を活用しながら自立支援を行うことについて理解を深める。そして、後半では子どもの権利と子育て家庭への社会的支援について学ぶ。今日の子どもを巡る社会問題について考える。これら福祉の対象者について、社会のさまざまな制度、地域との連携も含め多角的に考える。
地域共生専攻	<p style="text-align: center;">環境と社会</p> <p style="text-align: center;">(岡庭 義行)</p>	「環境問題」とは、私たちを取り巻くさまざまな事象が複雑に絡みあう問題群であり、環境学とは、これらの問題群の本質を学際的に解明し、その解決を目的とした学問領域の1つである。本講では、環境学を学ぶ上で必要な基礎的概念や思考、対象事例の解説を中心に行う予定である。
	<p style="text-align: center;">福祉政策学</p> <p style="text-align: center;">(太田和 良幸)</p>	健康・医療、子ども・子育て、福祉・介護、年金、労働者保護などの福祉行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。
	<p style="text-align: center;">環境社会学</p> <p style="text-align: center;">(中村 塑)</p>	本授業は、近年大きく取り上げられ、また多くの人が関心を持っているプラスチックごみに注目する。なぜ大量のプラスチックごみが発生するのか、誰が排出者なのか、海に流れ込んだプラスチックごみはどうなるのか、プラスチックごみを減らすにはどうすればよいのか、について講義する。
	<p style="text-align: center;">生活環境学</p> <p style="text-align: center;">(市川 遥夏)</p>	生涯にわたって健康で豊かな生活を営むことは人類共通の願いであり、人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上のために、食環境を中心とした生活を取り巻く環境と食の安全性についての基礎を学ぶ。
	<p style="text-align: center;">農業経済学</p> <p style="text-align: center;">(中村 塑)</p>	現代における農業・農村・食料の問題について講義する。わたしたちが生きる「グローバル社会」において、毎日の食事は日本の農業だけではなく、世界の食料事情や農産物貿易とも深い関わりを持っている。わたしたちが置かれている社会的環境を、食と農から学んでいく。

2025年度 前期「科目等履修生」開講科目 講義概要(4)

	授業科目(担当教員)	講義概要
地域 共生 専攻	地方自治論 (岡庭 義行)	かつて英国のジェームズ・ブライズは「地方自治は民主主義の学校である」と述べた。その後、社会の進展とともに、地方自治はその姿を大きく変貌させてきた。本講では、地方自治の歴史や事例の解説を通して、自治体の主体として私たちが担うべき役割と責任について考察する。
	地域資源論 (岡庭 義行)	人口減少社会の時代において「地域資源」は多様でその役割も大きくなりつつある。本講は、さまざまな領域における地域資源の事例を解説しながら、地域資源の管理と活用について理解を深めるものである。
ビ ジ ネ ス 専 攻	プログラミング応用 (大屋 伸彦)	レスポンスブルなWEBページを作成する。 JavaScript/jQueryを使って簡単なゲームを作成する。
	情報セキュリティ概論 (日坂 彰)	情報システムやインターネットの利便性が高まる一方で、様々なセキュリティリスクが伴う現実に対し、情報セキュリティの基本的知識と対策の必要性を講ずる。
	情報数学 (日坂 彰)	情報科学の基礎である数学を学ぶ。この講義は、(1)日常生活との密接な関係、(2) ICT (情報通信技術) に関連する職業に必要な知識、(3)情報処理系資格試験への合格の3点を強く意識した内容とする。
	ソーシャルビジネス概論 (中野 慶昭)	ソーシャルビジネスの成り立ちや仕組みを理解する。 ソーシャルビジネスの今後について考える。
	ベンチャービジネス概論 (大屋 伸彦)	起業や資金調達の基本的な仕組みを理解する。 ケーススタディから事業開発に必要なヒト、モノ、カネなどの経営資源をどう扱うのかを学ぶ。
	簿記論 (呉 鳶)	簿記を学習することは、企業の経済活動を理解し、これを整理、計算して有用な情報としてまとめることができる。本講義では、会計学概論よりも、演習問題を数多く解く講義になる。「知識として知っている」段階から、実践的に「使いこなせる」段階へ引き上げるための講義となる。
	財務管理論 (呉 鳶)	本講義では財務諸表の見方と分析方法を講義する。企業の財務的意思決定を理解するために、事業活動への投資、資金調達、利益の配分等に関する基礎知識と分析のスキルを習得する。
	経営学概論 (中野 慶昭)	経営学の基礎概念を組織論と戦略論の観点から理解する。また、その基礎となる知識を習得する。
	経営組織論 (中野 慶昭)	経営組織の構成や組織内での個人の役割、望ましい組織の在り方などについて学ぶ。また、経営組織についての基本的知識を習得する。

2025年度 前期「科目等履修生」開講科目 講義概要(5)

授業科目(担当教員)		講義概要
ビジネス専攻	経営管理論 (大屋 伸彦)	人々に影響を与える組織活動と組織を管理運営する手法について正しい方法を学ぶ。企業における様々なマネジメントについて学ぶ。
	経営戦略論 (中野 慶昭)	企業が競争的市場において生き残るための戦略を、経営戦略についての様々な概念や理論を理解し、企業が実際に取っている経営戦略を学ぶ。